



## F コマンド

---

この章では、F で始まる Cisco NX-OS TrustSec コマンドについて説明します。

# feature cts

Cisco TrustSec 機能をイネーブルにするには、**feature cts** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature cts**

**no feature cts**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature dot1x** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature cts
switch(config)#
```

次に、Cisco TrustSec 機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature cts
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature dot1x</b>	802.1X 機能をイネーブルにします。
<b>show cts</b>	Cisco TrustSec のステータス情報を表示します。

# feature dot1x

802.1X 機能をイネーブルにするには、**feature dot1x** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature dot1x**

**no feature dot1x**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**feature cts** コマンドを使用してスイッチの Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする前に、**feature dot1x** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、802.1X をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature dot1x
switch(config)#
```

次に、802.1X をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature dot1x
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show dot1x</b>	802.1X のステータス情報を表示します。
<b>feature cts</b>	スイッチの Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

